

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                          |     |            |
|----------------|--------------------------|-----|------------|
| ○事業所名          | にじいろ (児童発達支援)            |     |            |
| ○保護者評価実施期間     | 2026年 3月 4日～2026年 3月 25日 |     |            |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                   | 7家族 | (回答者数) 6家族 |
| ○従業者評価実施期間     | 2026年 3月 4日～2026年 3月 25日 |     |            |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                   | 14人 | (回答者数) 14人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 30日             |     |            |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|--|--|
| 1 | ・にじいろでは、広々としたスペースを最大限に活かし、体を思いきり動かせる多様な活動を日々提供しています。子どもたちがのびのびと挑戦できる環境づくりを大切にしながら、毎日異なるバリエーション豊かなプログラムを展開しています。   | ・季節ごとの行事やイベントを企画し、ワクワクする体験を通して「楽しい」「できた」という気持ちを育むことを大切にしています。また、曜日で決められた様々な活動に加えて、農作業体験や外出活動など、子どもたちが社会とのつながりを感じられる機会を意識的に設けています。  | ・子どもたちが見通しを持って安心して活動に参加できるよう、視覚支援を積極的に取り入れていきます。スケジュールや活動のルール、手順書などを分かりやすく提示することで、子どもたちが自分で理解し、自分で行動できる場面を増やすことを目指しています。   |
| 2 | ・にじいろでは、子どもたち一人ひとりの思いや気持ちを丁寧に受けとめ、その日の様子や興味に合わせて柔軟に活動内容を調整しています。子どもたちが「やってみたい」「こうしたい」と感じた気持ちを大切に、可能な範囲で個別対応を行います。 | ・子どもたちから伝えられた思いや希望にできる限り柔軟に応えることを大切にしています。その積み重ねによって子どもとの信頼関係を築きます。関わりを通して安心感が育まれることで、少しずつ職員の指示や提案にも応じやすくなるよう調整し、無理のない形で活動の幅を広げられるようにしています。  | 今後は、子どもたちの思いや希望に柔軟に応える姿勢をより深めるために、日々の関わりの中で小さな変化や気持ちの動きを丁寧に観察し、職員間で共有する体制を強化します。また、子どもが安心して自己表現できる場面を増やすことで、信頼関係をさらに安定させ、指示や提案を受け入れやすい状態へと段階的につなげていくことを目指します。          |
| 3 | ・安心して過ごせる、環境設定の充実。子どもたちが落ち着いて活動に取り組める空間づくりを進めている。   | ・視覚優位な子どもたちが安心して活動に取り組めるよう、場所・時間・ルールを分かりやすく示す「構造化」を徹底しています。活動する場所や移動先、活動の始まりと終わりの時間、片付けの手順などを視覚的に表示し、言葉での説明と組み合わせることで、子どもたちが見て理解し、自分で行動出来るように支援しています。こうした視覚支援を日常的に取り入れることで、見通しが持ちやすくなり、子どもたちが安心して自ら行動できる環境を作っています。 | ・子ども一人ひとりの理解の仕方や成長、特性に合わせた個別の視覚ツールを増やし、より細やかな見通しの提示ができるよう取り組みます。また、活動の流れやルールを子ども自身が確認しやすいよう、写真や実物を用いた表示、選択出来るのスケジュールなどを取り入れます。職員間で支援方法を共有し、日常の場面で一貫した構造化が行えるよう体制を整えます。 |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること   | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|--|---|--|
| 1 | ・地域との交流は、児童館の利用や近隣の散歩、公園での活動が中心となっています。幼稚園・保育園や地域の子どもたちとの交流機会については、今後の検討課題になっています。 | ・保育園、幼稚園との交流については、にじいろの支援時間帯と活動時間が合わず調整が難しいことに加え、利用児童の特性上、集団活動への参加が困難な場合が多く、交流の機会を十分に設けられていない状況です。  | ・引き続き、児童館の利用に加え、地域のお祭りやイベントなどを調べ、参加できる機会を作っていきます。また、児童の特性に応じた小規模な交流活動から取り組み、無理のない形で地域との関わりを広げていく体制作りを勧めます。                                     |
| 2 | ・保護者に代わり、保護者同士の交流を図るためのイベントを企画して参りました。兄弟向けのイベント等の開催や兄弟への支援には至っていません。               | ・保護者に代わり、ご家族同士の交流を促す目的として、土曜日イベントやクリスマス会、運動会、マルシェなどの企画を実施してきました。一方、土曜日イベントではすでに他の福祉サービスを利用しているご家庭も多く、参加が難しいようでした。その他のイベントについては時間帯や曜日による家族の都合が合わず参加につながりにくいようです。 | ・イベント内容については、大規模な企画だけでなく、個別相談会や少人数でのミニ交流会など、参加しやすい形式も検討していきます。さらに、事前アンケート等を通じてご家族のニーズを把握し、実際に求められている内容に沿った企画を行うことで、参加につながる取り組みを進めていきたいと考えています。 |
| 3 |  |   |  |